資料4

マネジメントWGの検討状況と今後の方針

マネジメントWGの目的・全体像

日本版NCAAのガバナンス体制の具体化とサスティナブルな運営体制の見通し確立を目的とする。
2018年3月の第3回総会における日本版NCAAの設立趣意書案の提示を目標として検討を進める。

本WGの目的

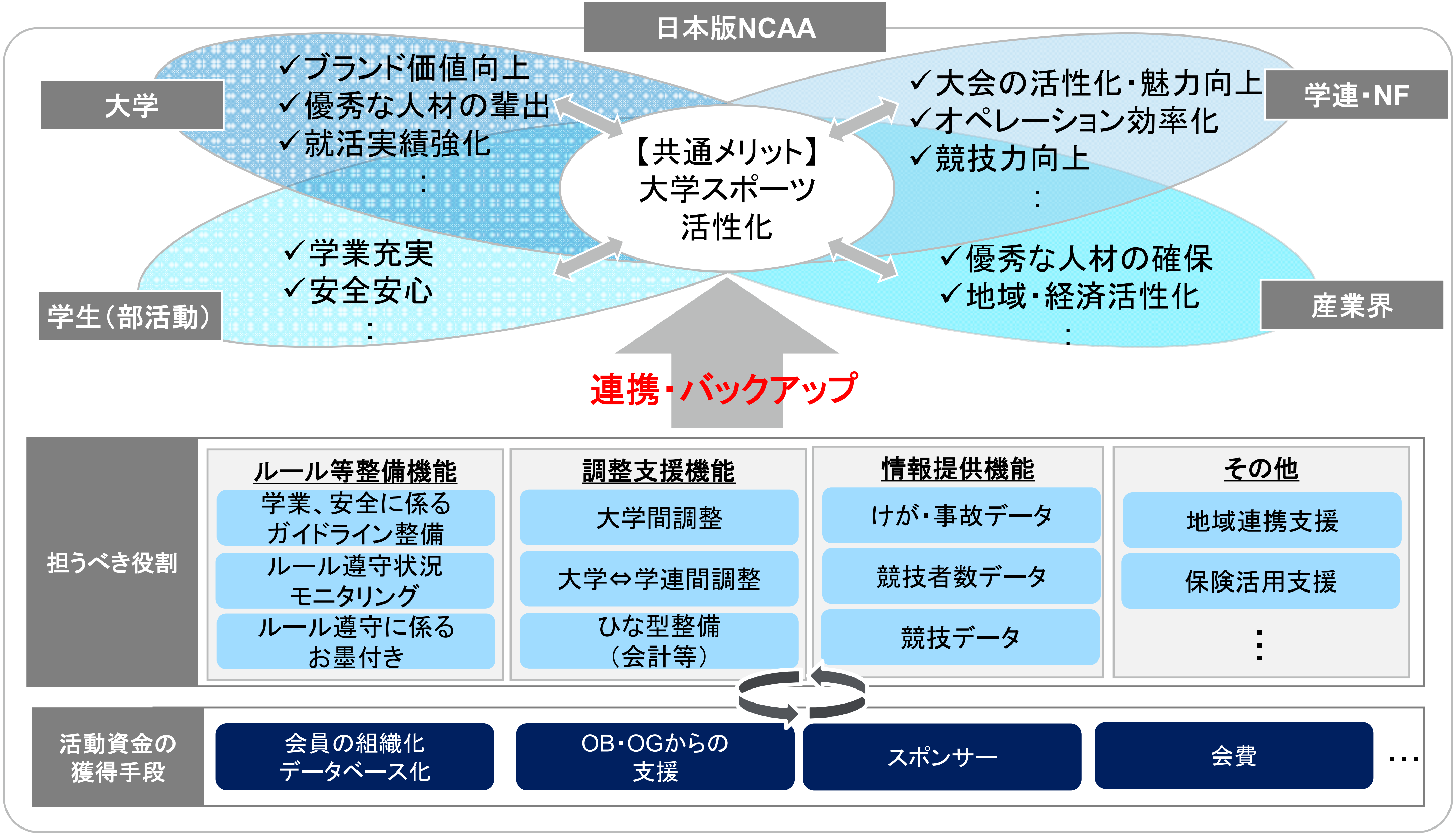
- 大学スポーツにおける**日本版NCAAのあるべき位置付けや運営体制**を整理する
  - ✓ 日本版NCAA創設後の大学スポーツにおける各ステークホルダーの役割・機能と範囲、および、その中での日本版NCAAの運営主体・体制が整理された状態を目指す
  - ✓ 学長会合の組成に向けた機運の醸成を目指す
- 日本版NCAAの**安定的・自立的な運営体制の見通しを確立**するための具体的な計画の検討を行う
  - ✓ 学業充実WG、安全安心WGでの討議結果を受け、日本版NCAAに求められる機能・運営体制に対して、創設後に最低限必要なコストと、コストを賄うための資金獲得手段（初期的収支計画）が整理された状態を目指す

本WGの全体像

第1回WG	「日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割」
第2回WG	「NCAAを活用した大学スポーツの活性化に向けた具体的施策」
第3回WG	「必須機能維持を前提とした日本版NCAAの組織運営方針」
第4回WG	「目指すべき将来像と来年度以降のロードマップ案」

第1回マネジメントWGの議論の整理：日本版NCAAの役割・機能と関係者メリットの繋がり

日本版NCAAはルール等整備機能、調整支援機能、情報提供機能等を担い、関係者の取組の連携やバックアップ支援を行うことにより、大学、学生、学連・NF界等の関係者が多様なメリットを享受できるものとする。



第2回マネジメントWGの議論の整理・日本版NCAAの組織イメージ（案）

第2回WGでは大学スポーツの更なる発展や観戦・応援のためのアイデアや実現にあたっての課題が提示された。これまでの各WGでの議論を踏まえ、日本版NCAAでは以下のような機能を持った委員会等の設置が必要と想定される。

日本版NCAA（仮称）

短期 ←→ 長期

学業充実委員会（仮称）

ルール、ガイドライン、指導者、情報共有 等

※詳細は学業充実WGで検討中

安全安心委員会（仮称）

ルール、ガイドライン、指導者、情報共有 等

※詳細は安全安心WGで検討中

事業委員会（仮称）

大会の活性化
コミュニティ形成
地域連携
資金獲得
大学スポーツ全体のブランディング等
⋮

◎大会レギュレーション機能

- 大会日程の調整
- ホーム＆アウェイ方式の促進
- 競技横断的大学対抗戦の推進
- 大会の共催
- 全国大会聖地化の機運醸成

◎個別データの管理・活用

- 情報収集・データベース化・共有
- 大学スポーツの収益等に係る調査・分析業務

◎シェアードサービスの提供

- チケット・グッズ等販売の共通サイトの構築
- 肖像権や会計ルールのガイドラインの整備
- 各大学の取組の優良事例等ノウハウの共有

プラットフォームの構築・活用

- データベースを活用したマーケティング
- 各大学の取組に係る法務・会計業務支援
- マイナー競技大会等の放送支援

◎その他

- インターンの受入・活用
- スポーツビジネスコンテスト

プロフェッショナルな人材の登用

マネジメントWGの今後の討議テーマの整理

2018年3月の第3回総会における設立趣意書案の提示を目標として検討を進める。第3回WG以降、安全安心・学業充実WGでの討議結果を集約し、ガバナンス・ビジネスモデルの検討や来年度以降のロードマップ案作成を行う。

11月下旬　1月下旬　2月下旬　3月下旬

WGの検討対象

WGの検討対象					
安全安心に関する事項	安全安心	第1回	第2回	第3回	
学業充実に関する事項	学業充実	第1回	第2回	第3回	
上記「以外」の全て	マネジメント	第1回	第2回	第3回	第4回

マネジメント 第1回：日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割
- 大学側のメリット
- 具備すべき役割・機能

→ 関係者役割

マネジメント 第2回：NCAAを活用した大学スポーツの活性化に向けた具体的施策
- 集客強化の仕組み
- 課題の洗い出し

→ 大学スポーツ活性化

マネジメント 第3回：必須機能維持を前提とした日本版NCAAの組織運営方針
- 組織構造
- 資金政策

→ ガバナンス ビジネスモデル

マネジメント 第4回：目指すべき将来像と来年度以降のロードマップ案
- 設立趣意書
- 残課題の整理

→ ロードマップ

取り纏め → 第3回総会（3月下旬）

設立趣意書

ロードマップ（案）

趣意書の内容
1　趣　旨
- 定款に定められている目的や事業に係る社会経済情勢やその問題点
- 法人の行う事業が不特定かつ多数のものの利益に寄与するゆえん
- 法人格が必要となった理由

2　申請に至るまでの経過
- 法人の設立を発起し、申請するに至った動機や経緯

Appendix

第1回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAの想定課題**

- ✓ 日本の大学スポーツはピラミッド構造となっており、上手くいっているところと上手くいっていないところ、その中間がある。それぞれのポジションにある大学に対して日本版NCAAがどういうメリットを出せるのかという議論が必要
- ✓ 会計面において、大学の運動部活動がアカウンタビリティを果たせるよう、日本版NCAAで報告用のひな型を整備できると良い
- ✓ 「国際競技力の向上」という観点で大学スポーツにどういう役割を求めていくかという大きなテーマがある。統括団体としての日本版NCAAが広く薄く様々な支援をしてくことは学生にとっては良いことでもある反面、（トップアスリートへの重点的な支援が薄まることで）国際レベルの学生の輩出を弱めてしまうことにならないかという懸念がある

■ **日本版NCAAを活用した大学の価値向上**

- ✓ 日本版NCAAがプラットフォームとして、大学生としてのあるべき姿を色々な形で共有し、横展開する機能を提供することで、日本の大学でアスリートをやることの価値を向上させていくことができる
- ✓ 大学にアリーナ・スタジアムを作り、そこに学生が集まり、応援できるような場になれば、学生のためにもなるし、大学のブランド力の向上にも繋がる。作るには当然お金がかかるが、資金面も含め日本版NCAAが支援することはできないか
- ✓ 地域や地域活性化等のブランディング。大学スポーツを上手く地域活性にも絡めていくような形を考えていくとよい

第1回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAがあるべき役割・機能を果たしながら、自立的運営を行っていくための活動資金の獲得手段**

- ✓ 学生アスリートをまとめ一定規模の会員データとなればそれを使ったビジネス展開を望む企業が出てくる。組織化したら大きな武器となると思うが、どこまでできるのかという体系を整理する必要がある
- ✓ アスリートに関する様々なデータを集めることで、その属性に応じた怪我の予防・治療法やトレーニング方法などが生まれてくる。トレーニング機器やヘルスケア部門の開発、食品・サプリの効果・効能を調べるなど色々な発展可能性がある。但し、個人情報について、どういった形で同意をとり、研究計画を作り、知財などをどう取り扱っていくかという制度設計をしっかり行うことが必須
- ✓ 加盟大学の学生アスリートを使った研究などの調査を共同で行うようなスポンサーシップの取り方も考えられる

■ **大学とOB・OGとのハブとしての可能性**

- ✓ 現在の日本の大学スポーツは、大学とOB・OGとの関係性のポテンシャルが十分に活かされていない。卒業後に関係性が維持できず、自分の母校が今何をやっているかを知らないケースが多い。関係性を繋ぐパイプやメディアがあれば、母校愛を喚起することができ、OB・OGからの応援したいという流れが起きてくることが期待される。大学スポーツをきっかけにOB・OGからの物理的な寄付や有能なOB・OGのビジネスパーソンからのナレッジによる支援を得られる可能性もあるのではないか

第2回マネジメントWG（2017/11/20開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 大学スポーツをより活性化させるために日本版NCAAができること

① <u>**大学スポーツの更なる発展のために必要な機能**</u>

- ✓ **プロフェッショナル**による組織運営：特に、ブランディング、マーケティングの機能は日本版NCAAの中に必要
- ✓ **NF・競技団体等関係組織との連携**：「競技団体間の横串」、「大学間の横串」の機能が重要。各競技団体はそれぞれの進化の仕方、発展の仕方があり、日本版NCAAとしてそれを横展開していくべき。既得権は侵さず、日本版NCAAと学連・関係団体とが、新しい価値をどう創造するかというところに機能を持たせてほしい
- ✓ **稼げる競技の検証**：大学スポーツは競技数が非常に多いため、稼げる競技を抽出・検証した上で実際に研さんし、入場料や放映権収入がどれだけ取れるのかを試算する必要がある
- ✓ **データの管理・利活用**：日本版NCAAに加盟する団体が、データの管理権を移管するのであれば、それらを統合して、新たなビジネスモデルに利活用するべき。大学は各地域にあるため、地域自治体との連携を深めながら、それぞれの医療機関を巻き込みながら、場合によっては一般学生とのデータをあわせた上でその活用を考えていくべき
- ✓ 情報共有：**ADの事例等を日本版NCAAが集めて、それを共有**していくことが加盟大学等にとって大事なデータとなる
- ✓ **指導者**に対する資格付与：指導者の考え方による影響が大きい。メディカル、アセストレーナーなどの講習・資格付与の機能が必要
- ✓ **試合会場の確保**のためのサポート：六大学野球では様々な取り組みが行われているが、それは神宮球場という「場」があるから。会場の問題を日本版NCAAで解決できるとよい
- ✓ **放映権の整理**：現状、放映されている大学スポーツは少ないものの、OTTサービス進展の中で放映の在り方についての検討が必要
- ✓ **グッズ開発・チケット管理の一元化**：各大学や各部活動ごとにバラバラでなく、日本版NCAAがある程度一元化することが必要。フォーマット化して、プラットフォーム化することが大事。共通基盤のサービスは日本版NCAAが抱えてはどうか
- ✓ **人材交流・輩出のハブ**：プロリーグでさえ優秀な人材が不足している現状下で、日本版NCAAにかなり多様な機能が必要であることを考えると、日本版NCAA自らがインターン等で人材を取り込み、輩出するような仕組みを内在しておく必要がある
  - 例えば、各大学の経営学部等を活かし、スポーツをやっていない経営学部の学生にも入ってもらう形での**ビジネスコンテスト**を日本版NCAAが主催し、良いビジネスモデルを活用する等の取り組みを通じ、人材が日本版NCAAに集まってくることを目指す
- ✓ 二段階の組織構造：日本版NCAAには基本要件としてのコストセンターの役割（安全安心、学業充実など）とプロフィットセンターの役割（収益確保）の両面の役割が必要。これを組織に置き換えたときに、非営利法人（公益法人等）と営利法人（株式会社等）の二段階の組織で運営していくことも必要ではないか

第2回マネジメントWG（2017/11/20開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 大学スポーツをより活性化させるために日本版NCAAができること

② <u>大学スポーツの観戦・応援の増加に向けて</u>

- ✓ **ホーム＆アウェイ方式**の採用：セントラル開催の場合、多くの一般学生は試合を見に行くことができない。但し、日本の場合、各大学でスタジアム・アリーナを作ることは現実的に難しく、地域によった使い分けが必要。一つの代替案としては、ニュートラルサイトのようなところをホームゲーム扱いとして、大学関係者を呼ぶような形でイベント化してもよいのでは
- ✓ **全国大会の聖地化**：高校野球の甲子園や米国の大学野球のオマハのように、競技ごとの聖地を作って、そこを目指したいと思える場所を作ることが重要
- ✓ **NCAA主催のトーナメント大会**の開催：既得権とのバランスの調整が重要。対象となる競技の検討が必要
- ✓ **大学対抗方式**の採用：（BUCSのように）総合得点で大学対抗にして、競技ごとの競争ではなく大学全体として競争することで、大学生や教職員の応援を得ることができるのではないか。学園祭のようにお祭り感を出せると応援してもらいやすくなるのでは
- ✓ **スクールブランディング**：母校愛の醸成のため、大学単位でロゴ、カラー、ニックネーム等を統一することも大切
- ✓ **広報のプラットフォームづくり**：学内にチームの情報がどこにあるか、試合がどこで開催されているか分からない状況であるため広報のためのプラットフォームが必要。また、学内の広報のためにも、学生の肖像権の管理の立て付けを再度確認すべき。学生の肖像権の管理運営の在り方についての検討が必要
- ✓ **応援文化の醸成・地域の巻き込み**：
  - 地域密着により、多様なコミュニティをどう発展させていくかがポイント。例えば、地元の総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団において学生がおしえた生徒が応援に来る。あるいは、**OB・OG等との縦の繋がりの強化**。あるいは、学校の中でのクラス、教職員等様々な繋がりの中でアスリートが中心となり、あるいはアスリートを訴求するような形でコミュニティを広めていくような働きかけが重要。とりわけ**一般学生への訴求、巻き込み**が重要
  - 大学と地域が上手く活用し合いながら地域おこしにつながるような形で発展していくことが一つの目指すべき形。一つのアイデアとして、地域独特の**応援飯**のようなものができたらよいのでは。あるいは、ホーム＆アウェイ方式が上手くいくようであれば、自分のホームゲームは地域一体の様々な種目が見られる**地域観戦券**も活用できるのではないか